

正しく知って、 備えて安心 立川断層



- 立川断層はどこを通る？何が起こる？
- 立川断層を掘って調べた地震の切迫度
- 活断層とともに暮らす知恵
- 東日本大震災後の今、言えることなど、活断層の研究者がお話しします。

立川断層とともに安心して暮らすコツがわかります。

政府の地震調査研究推進本部は、全国の主な活断層について近い将来、どのような地震が発生する可能性があるか、そして、その可能性はどの程度かを公表しています。立川市内をとる立川断層帯では、マグニチュード7.4程度の地震が発生する可能性があります。今後30年以内の可能性（確率0.5～2%）からみると、立川断層は日本の主な活断層の中で可能性が「やや高いグループ」にあたるとしています。

平成23年3月11日に東北地方太平洋沖地震が起きたことにより、その後に日本各地で地震活動が活発化しており、政府は、立川断層など国内のいくつかの活断層については地震発生確率が高まっている可能性があるとして注意を促しています。

大勢の方から問い合わせが寄せられている立川断層帯について、市民の方に正しく理解していただくため、日本活断層学会と立川市の共同主催による講演会を企画しました。ぜひご来場ください！

日 時 平成 24 年 1 月 27 日（金）・開場 17 時 開演 18 時 終演 20 時 30 分（予定）

会 場 立川市市民会館（アミューたちかわ）・大ホール 立川市錦町 3-3-20

*会場までは公共交通機関をご利用ください。

講 師 山崎 晴雄（首都大学東京教授）

宮下 由香里（産業技術総合研究所主任研究員）

浅見 茂雄（三浦半島活断層調査会顧問）

島崎 邦彦（東京大学名誉教授・日本活断層学会会長・地震予知連絡会会長）

定 員 1,452 人（事前申し込み不要、先着順） 入場無料

主 催 日本活断層学会・立川市 後 援 東京都（申請中）

問合せ 立川市市民生活部防災課 電話：042-523-2111（内線：2531・2535）

*講演会の翌日 1 月 28 日（土）には日本活断層学会会員による現地説明があります。詳細は日本活断層学会のホームページをご覧ください。<http://danso.env.nagoya-u.ac.jp/jsafr/>

【講師紹介】

山崎 晴雄（首都大学東京教授）



首都大学東京大学院 都市環境科学研究科 地理環境科学専攻 教授
東京都立大学大学院理学研究科地理学専攻修士課程修了、理学博士
著書（編著）：「第四紀学」（朝倉書店） 著書（共著）：「活断層とは何か」（東京大学出版会）
専門・研究分野は地震地質学・第四紀学・地形学、活断層の活動史解明と地震危険度評価

宮下 由香里（産業技術総合研究所主任研究員）



新潟大学理学部地質鉱物学科卒業、愛媛大学大学院理学研究科修士課程地球科学専攻修了、
大阪市立大学大学院後期博士課程地球学専攻修了、博士（理学）
専門・研究分野：地質学、古地震学、活断層の活動履歴の解明と活動性評価手法の開発

浅見 茂雄（三浦半島活断層調査会顧問）



横浜国立大学教育学部中学校課程 理科 地学卒業
三浦半島の地質・三浦半島活断層群の調査研究、元横須賀市自然・人文博物館研究員
共著：「三浦半島 自然と人文の世界」（神奈川新聞社）、「新横須賀市史」（横須賀市）

島崎 邦彦（東京大学名誉教授・日本活断層学会会長・地震予知連絡会会長）



東京大学理学部地球物理学学科卒業、同大学理学系大学院地球物理学専攻修士課程修了、理学博士
著書（編著）：「あした起きてもおかしくない大地震」（集英社）、「地震と断層」（東京大学出版会）、
「古地震を探る」（古今書院） 著書（共著）：「活断層とは何か」（東京大学出版会）
専門・研究分野は地震学、地震発生の長期予測、地震に関する知識の普及

会場：立川市市民会館 大ホール（定員：1,452人）

〒190-0022 立川市錦町 3-3-20 公益財団法人立川市地域文化振興財団

電話:042-526-1311



J R 立川駅南口下車徒歩 13 分 J R 西国立駅（南武線）下車徒歩 7 分 多摩都市モノレール立川南駅下車徒歩 12 分